

いちげ 一夏会報

No.65



平成27年10月31日

発行：鶴見大学

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3

TEL.045-574-8622・3(ダイヤルイン)

http://www.tsurumi-u.ac.jp



鶴見大学学長

伊藤 克子

本について語りたい

七月十六日の開講式に始まり二か月間、大学にとつては毎夏の恒例行事ではありますが、皆さんにとつては、後にも先にもこの一回限りのことかも知れません。久しぶりに学生時代に戻って、連日朝から通学して勉強に励まれたのですから、その努力は本当に賞賛に値します。さて、皆さんは司書・司書補を志されるくらいですから、かなりの本好きと拝察します。今号は、紙上をお借りして私が面白かった本について少しご紹介させていただきます。

『食う寝る坐る 永平寺修行記』 野々村馨

お寺に縁のない普通の青年が一念発起、永平寺で送った一年間の修業の体験記です。ここ總持寺でも、毎春上山してくる若者が三松関の前で、その覚悟のほどを確かめられ、何度も追い返されるといふ光景を目にします。しかし、そこから先、首尾よく門をくぐった彼らにどんな日々が待っているのか、窺い知るすべがありませんでした。それが克明に書かれていて興味が尽きません。

それこそ食う寝る坐るの作法から洗面、トイレ、作務…、睡眠不足と少ない食事に耐えて、懸命についていく修行僧。すべてのことにこと

細かな作法があるのは、曹洞宗ならではですが、ここ總持寺の修行も同じでしょう。

『妹とバスに乗って』 レイチェル・サイモン

筆者は三九歳の女性、彼女には、年子で知的障害の妹がいます。妹は生活保護を受けながら一人暮らしをしているのですが、姉は、面倒をみなければと思いつつも、自由気ままな妹に少し腰が引けていました。これを後ろめたく思っていたある日、妹に付き合っ一年間バスに乗ることを承諾します。実は妹は、バスに乗るのが大好きで、一日中始発から何台ものバスを縦横無尽に乗り継いでは、運転手や乗客との会話を楽しんでいたのでした。始めは付き合ってたはずなのに、バスという小世界を通して次第に新しい世界に気づきだす姉、一年間にわたる姉の手記です。

『ぼくと一ルピーの神様』 ヴィカス・スワラップ

「スラムドッグ\$ミリオネア」というタイトルで映画化され、各国の賞を総なめにした映画の原作です。インドのスラム街で暮らす三流レストランのウェイターが、クイズ番組でみごと全問正解し、賞金一〇億ルピーを手にしたことから話が始まります。貧しく教育もない青年が全問正解したことから不正を疑われて警察に逮捕

されますが、そこから、なぜ全問の答えを知っていたのか、質問一つ一つを振り返りながら、彼の生い立ちが語られていきます。貧困、殺人、強盗、虐待、売春、宗教問題、さまざまな社会問題も浮き彫りです。逆境の中、知恵と機転で生き抜いてきた青年のたくましさに脱帽です。

『初恋のきた道』 鮑十

原作は、鮑十の短編集に収められている「駱先生」で、これも映画の方が有名です。私も映画の印象に魅かれてこの本を手に取りましたが、驚いたのは、たったこれだけの小説から、よくあんな映画が作れたものだということでした。このあたりが監督・張芸謀の圧倒的なイメージの力なのでしょう。

話は、中国の片田舎に住む少女が村の小学校に赴任してきた青年教師に恋をするところから始まりますが、小説では、冒頭と最後の部分、すなわち老いた教師が亡くなり、その棺桶を担いだ教え子たちが村への一本道を帰っていくところまで一足飛びに飛んでおり、映画で語られるような胸を締め付けられる数々のエピソードはありません。美しい農村の四季の風景と少女を演じた章子怡の可憐さに完敗しました。

司書・司書補講習を修了して



鶴見大学司書・司書補講習
主任教授
角田 裕之

司書・司書補講習の修了は、四年間あるいは二年間に渡り段階的に学習します。ところが、司書講習で取得するには、段階的学習を僅か二箇月間で修了しなくてはなりません。よって、豪雨等があり、天候不順の日が続きました。さぞや、体調管理に気を使われた方が多かったのではないのでしょうか。皆様が一夏

は、四年間あるいは二年間に渡り段階的に学習します。ところが、司書講習で取得するには、段階的学習を僅か二箇月間で修了しなくてはなりません。よって、豪雨等があり、天候不順の日が続きました。さぞや、体調管理に気を使われた方が多かったのではないのでしょうか。皆様が一夏

は、四年間あるいは二年間に渡り段階的に学習します。ところが、司書講習で取得するには、段階的学習を僅か二箇月間で修了しなくてはなりません。よって、豪雨等があり、天候不順の日が続きました。さぞや、体調管理に気を使われた方が多かったのではないのでしょうか。皆様が一夏

は、四年間あるいは二年間に渡り段階的に学習します。ところが、司書講習で取得するには、段階的学習を僅か二箇月間で修了しなくてはなりません。よって、豪雨等があり、天候不順の日が続きました。さぞや、体調管理に気を使われた方が多かったのではないのでしょうか。皆様が一夏

は、四年間あるいは二年間に渡り段階的に学習します。ところが、司書講習で取得するには、段階的学習を僅か二箇月間で修了しなくてはなりません。よって、豪雨等があり、天候不順の日が続きました。さぞや、体調管理に気を使われた方が多かったのではないのでしょうか。皆様が一夏

は、四年間あるいは二年間に渡り段階的に学習します。ところが、司書講習で取得するには、段階的学習を僅か二箇月間で修了しなくてはなりません。よって、豪雨等があり、天候不順の日が続きました。さぞや、体調管理に気を使われた方が多かったのではないのでしょうか。皆様が一夏

は、四年間あるいは二年間に渡り段階的に学習します。ところが、司書講習で取得するには、段階的学習を僅か二箇月間で修了しなくてはなりません。よって、豪雨等があり、天候不順の日が続きました。さぞや、体調管理に気を使われた方が多かったのではないのでしょうか。皆様が一夏

定の講習科目の変遷が克明に示されています。また、多数の担当講師の思い出や修了生の思い出も掲載されており、本講習が多くの有能な図書館学の教育者や図書館員を社会に送り出したことが良く分かると思います。講師陣一同は、今期の修了生の皆様も将来、図書館界でご活躍されることだと確信しております。

さて、ここから、図書館活動について二つの事例をご紹介します。今年度の夏、私は国際図書館連盟(IFLA)が開催した会議で研究成果を発表するために、南アフリカ共和国のケープタウンを訪れました。本会議は世界の図書館界の現状を把握し、課題と対策を検討し、連携して実施する上で最も重要な会議です。世界中の図書館員や大学等の教員が約三千人以上参加し、本講習の講師の先生方も五名参加されました。開催国の南アフリカ共和国は世界一貧富の格差が大きく、犯罪の発生件数も非常に多い国です。その原因のひとつに識

字教育環境の未整備が挙げられます。近年、旧マンデラ政権下で義務教育制度を普及させ、全国の隅々まで二万六千の学校を建設しましたが、大半の学校に図書室がなく、多くの生徒は本に出会う機会がありませんでした。この解決策のひとつとして、日本が支援する「南アフリカ初等教育支援の会」が展開する「移動図書館車プロジェクト」があります。これは日本の図書館が使用していた図書館車を南アフリカ共和国に寄贈する事業です。教育現場では、日本から送られた図書館車が学校を巡回して本を届けていました。生徒は二週間に一度来る図書館車を心待ちにしている、学校に図書館車が着くと教室から飛び出して来て、楽しそうに本を選んで借りていました。ひとりでも多くの生徒に本を届け、良い社会を築く手助けになればと願いました。

最後に、受講生の皆様が、図書館や図書等に係わる仕事に就かれ、さらにご活躍されますことを期待しております。

さて、司書資格を取得するには、必修が十一科目で二二単位、選択が二科目で二単位、合わせて二三科目で二四単位を取得する必要があります。大学や短期大学で司書資格を取得するに

は、四年間あるいは二年間に渡り段階的に学習します。ところが、司書講習で取得するには、段階的学習を僅か二箇月間で修了しなくてはなりません。よって、豪雨等があり、天候不順の日が続きました。さぞや、体調管理に気を使われた方が多かったのではないのでしょうか。皆様が一夏

は、四年間あるいは二年間に渡り段階的に学習します。ところが、司書講習で取得するには、段階的学習を僅か二箇月間で修了しなくてはなりません。よって、豪雨等があり、天候不順の日が続きました。さぞや、体調管理に気を使われた方が多かったのではないのでしょうか。皆様が一夏

は、四年間あるいは二年間に渡り段階的に学習します。ところが、司書講習で取得するには、段階的学習を僅か二箇月間で修了しなくてはなりません。よって、豪雨等があり、天候不順の日が続きました。さぞや、体調管理に気を使われた方が多かったのではないのでしょうか。皆様が一夏

は、四年間あるいは二年間に渡り段階的に学習します。ところが、司書講習で取得するには、段階的学習を僅か二箇月間で修了しなくてはなりません。よって、豪雨等があり、天候不順の日が続きました。さぞや、体調管理に気を使われた方が多かったのではないのでしょうか。皆様が一夏

は、四年間あるいは二年間に渡り段階的に学習します。ところが、司書講習で取得するには、段階的学習を僅か二箇月間で修了しなくてはなりません。よって、豪雨等があり、天候不順の日が続きました。さぞや、体調管理に気を使われた方が多かったのではないのでしょうか。皆様が一夏

人と情報資源との「出会い」を

サポートするもの



明星大学
講師
榎本 裕希子

鶴見大学司書・司書補講

習の受講生の皆さん長期間の講習、本当にお疲れさまでした。今年は東京で8日間連続の猛暑日を記録するほどの暑暑い日が続いたかと思えば、8月後半は一変して涼しい日が続くときには10月並みの気温にまで急落するなど、何とも気温差の激しい夏でした。このような天候のなか、体調維持に気を配りつつ2カ月に及ぶ講習を受講するのは苦労も多かったことと思われます。また興味のある科目もあればそうではない科目もあったでしょうし、長時間座り続けていることの苦

痛もあつたかもしれませ

ん。時間や労力、さらに情熱や希望などさまざまなものを費やして臨んだ結果が見事資格取得というかたちで花開く方もいれば、そうではない方もいらっしゃるでしょう。しかしさまざまな苦難を乗り越えたことは事実であり、その達成感や充実感は何物にも代えがたいのではないでしょう。私が担当しております「情報資源組織演習(目録)」では、図書館に所蔵されている情報資源を検索するツールである目録の作成方法を学びます。この情報資

源の組織化は、言い換えま

すと人と情報資源との「出会い」をサポートする作業でもあります。情報資源との出会いはときにその人の人生に大きな影響を与えることがあります。それを仮に「本の力」と呼ぶことにしましょう。最近私はこの「本の力」を目の当たりにする出来事がありました。娘が生まれてから近所の公共図書館へ絵本を借りによく行くようになり、その日もいつものように私が絵本を選んでみると、娘が『とらばあちゃんのおめしごと』(いちかわけいこ文・垂石眞子絵、アリス館刊)

を押されこの絵本を借りま

した。何回か読み聞かせをしたある日、娘が「うめぼしたべたい!」と言いだしました。娘は梅干しが食べられませんが、過去に何度か口にはしましたが、いずれもすぐに吐き出していました。絵本で興味をもつたのだろうけど大丈夫かな?と思う一方、どんな反応をするのか見てみたい!という好奇心もあり試しに梅干しを渡してみました。娘は一口かじりその酸っぱさに一瞬身震いするも「すっぱーい!でもおいしー」といい、なんとそのまま全部食べてしまったのです。以来梅干

しは娘の好物になりました。絵本をきっかけに食べ物

の好みが変わるなどということがあるのかと俄かに信じがたい気持ちでしたが、それ以上にこれが「本の力」なのだと深く感動しました。そして情報資源とは知識や情報を得たり、娯楽として楽しんだりするだけのものではない。その人の生き方に変化をもたらすような影響力を發揮する。そんな無限の可能性を秘めているのだと強く意識するようになりました。

習を通じて身につけた知識

やスキルは図書館サービスのさまざまな場面で必ず役立つでしょうし、是非活かしていただきたいです。そして時々情報資源組織化作業の先には、もしかしたらその人の人生を左右するような人と情報資源との「出会い」に繋がる可能性があるのだということも意識してもらえたらと願っています。

ハイブリッド型図書館には よりスキルの高い司書・司書補を！



相模女子大学
准教授
松本 勝久

「ハイブリッド型図書館」は、まもなく当然のことになりそうな趨勢にありま
す。それは、来年4月1日
に「障害者差別解消法」が
施行されることになってお
り、情報アクセシビリティ
の改善が待たなしになっ
ているからです。この法律
は、2006年に国際連合
で採択された「障害者権利
条約」を批准するために立
法されたもので、「合理的配
慮」の実施を公共団体には
法的義務、民間事業者には
努力義務として求めています。この「合理的配慮」とは、利用しにくい施設・設備、制度、障がいのある方の存在を意識していない慣習・文化、障がいのある方への

偏見などといった社会的障壁を取り除くために、障がいのある方に対し、個別の状況に応じて行われる配慮を言います。そして、この「合理的配慮」を行うことにより、形式的に平等な機会を提供するだけでなく、実質的に同じスタートラインにたてることを保障しようというのです。その際に、「障害者権利条約」は、「障害者に対し、様々な種類の障害に相応した利用しやすい様式及び機器により、適時に、かつ、追加の費用を伴わず、一般公衆向けの情報を提供すること」等を含めて、全ての適当な措置をとることを求めています。すなわち、現在の発展した

情報通信技術をふまえて実施するよう求めているのです。例えば、視覚障がい者に対しては、読み上げでの対応だけではなく、音声変換ソフトの提供等も「合理的配慮」となるのです。そして、そもそもユニバーサル・デザインであるべきであった公共の図書館はこの「合理的配慮」の要請に、「ハイブリッド型」への移行によって解を見出すとしていっているのです。すなわち、電子書籍の導入です。それは、社会人、高齢者や障がい者といった、これまで来館しにくかった人々をサービス対象に加えたうえで、365日24時間サービスを實現でき、文字拡大や

音声読み上げといったアクセシビリティ機能による「障がい者支援」が実現できるからです。しかし、図書館は、一般消費者向けの電子書籍を蓄積してサービス提供するというわけにはいきません。プラットフォーム（図書館向け電子書籍配信システム）と契約し、その提供する電子書籍を導入せざるをえないからです。問題は、このプラットフォーム自体が全世界でもわずかの数しかなく、個々の図書館の立場を配慮してくれるかが疑わしいことにあります。たぶん、おススメのパッケージ単位での提供が中心になることが予想されます。言い換えると、「選書」が充分になされず、どの図書館も似たり寄つたりの「蔵書構成」になったりしそうな懸念があります。また、それら電子書籍は、プラットフォーム側のDRM（デジタル著作権管理）のもとで管理され、ストリーミング方式で提供されることになるでしょう。そして、アメリカ合衆国での例を参考にすれば、紙の2〜3倍の価格が設定されたり、貸出

回数が制限されたり、利用期間が2年に限定されたりします。もちろん、1回の貸出数を増やしたり、一定期間内での貸出回数を増やしたり、利用期間を延長したりするには、追加の支出が必要です。財政難を理由に大幅な資料費の削減が続くなか、きわめて高いハードルがあるのです。そして、ストリーミング方式はレスポンスがやや遅く、ページ送りにストレスを感じさせることにもなります。さらに困つたことは、DRMによって、音声読み上げ等のアクセシビリティ機能が制限されている場合があることです。実は、「音声読み上げ」によるアクセシビリティに対応した電子書籍制作ガイドライン」を総務省が公開したばかりなのです。さて、図書館はどうすればよいのでしょうか？ 司書が、サービスのポリシーを明確に定め、利用者の立場を考えて運営することに尽きると思います。「ハイブリッド型図書館」になると司書は必要ない、あるいは誰でも運用できると錯覚されるかもしれません。かつて、情報管理システムが導



入されはじめた頃、システムを導入さえすればすべてはうまくいくという楽観論がありました。しかし結果は、「MIS (Management Information System) is Miss」と言う無残なものでした。その後、所要所に専門家を配置し、彼らの賢明な努力とナビゲーションによって運用できたのでした。それと同じことだと思えます。「見えにくい情報資源」を相手にし、ときには紙とデジタルを連携させるわけですから、むしろ逆に、より高いスキルを持つ司書が必要になってくるのです。鶴見大学司書・司書補講習の受講生の皆さんが、そうなられることを願うばかりです。

受 講 生 司 書



司書講習で

芽生えたもの

川端 治諒

司書講習を受ける方の多くは、将来こういう司書になりたいという理念や、もしくは現在既に図書館に勤務していて、更に深く学びたいという明確な目標を持って臨まれる方が多いと思います。一方私は、ここで言うのも躊躇われるのですが、正直なところ、大学在学時にいくつか司書資格に必要な講義を受講して、せっかくだから残りの単位も取って資格を取得しようなどという、大変単純且つ不純な動機でこの講習に臨みました。勿論図書館での仕事に興味があり、そこで働くという事やその仕事内容に興味はありました。現状図書館と私の接点と言えは精々近所の図書館をよく利用しているくらいのもので、図書館に

関する専門的な知識はほとんど皆無に等しいという状態でした。司書講習を受けるにあたって、日程表を見てあまりのハードスケジュールに驚愕したのを覚えています。さて実際の講習ですが、振り返ってみると、やはり復習や試験対策に追われながらあつという間に過ぎていったように思います。始めは長時間の講義についていくのに必死でしたが、新しい事柄を学ぶと、ではあれはどうなっているのだろう、これはどうなっているのだろうと、知識を吸収していくのが楽しくなっていました。図書館内のことだけでなく、図書館自体が予想以上に社会の様々な分野や制度につながってゆくという事。図書館のたどってきた道。以前の自分では深

く考えもしなかった事を学ぶ事が出来ました。これだけの知識を得た今、早くこの経験を生かしたいと逸る気持ちの自分があります。開始当初、詰め込まれた日程を見て早くも挫折を覚悟した自分が、無事講習を乗り切ることが出来たのは、時に面白おかしく、興味を惹くようなやり方で気負わず教えて下さった講師の先生方のお陰だと思っています。この場を借りてお礼申し上げます。ただひとつ心残り、大学で既に取っていた単位の講義を受けていた事です。こんなに興味深いことばかりなら、改めて全ての講義を受けると受講前の自分の元に飛んで行って言い聞かせたいです。

受 講 生 司 書



出会えた

すべての方に感謝

中村 美奈

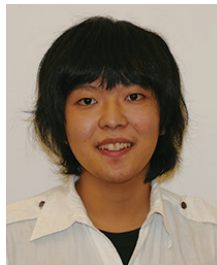
数年前、図書館の仕事にささやかな興味を持ち、鶴見大学の司書補習講習を受講しました。図書館の勉強なんて楽しそう！と気軽に考えていたら、想像を超える厳しさやハードスケジュールに、えらい所へ来てしまった！と青ざめたのを覚えています。それでも思い返せば貴重な経験をさせていただいた有意義な時間でした。資格取得後、いつかまた鶴見大学で司書講習を受講したいと淡い希望を抱いて就職活動を始めました。幸いにして公共図書館に勤務する機会を得ることができ、今回の司書講習につながりました。

実務を経験した上での受講なので、図書館の知識が全くなかった前回よりは多少余裕があるかと考えていましたが、現場で必要とされるスキルと資格を取得するための勉強にはずれがあり、今回もやはり予想以上の高レベルな講義に自分の力不足を痛感する毎日でした。とはいえ、図書館界を熟知した先生方のお話は得るところが多く、司書を目指す皆さんとの雑談もかけがえのない時間となり、受講できてよかったと思っています。今後、再出発するため初心に返って一から就職活動を始める予定です。同様にこれからチャレンジされる方、図書館の世界は広いようで案外狭いので、どこかでお会いすることがありましたらよろしくお願い致します。

この度の講習は、もともと体調と相談しながらの受講だったので、残り2週間というところでひいた風邪が長引き、ご一緒した受講生の皆さまにご迷惑、ご心配をおかけしてしまいました。温かいお心遣いをいただき、ありがとうございます。また、期間中何度も挫けそうになりましたが、どうか2か月を無事過ごせたのは、共に寮生活を送った方々と励まし合えたことが大きかったと思います。寮生の皆さん、本当にありがとうございます。ございました。それぞれの場所へ戻っていった皆さまのご健闘をお祈りしております。そして熱心にご指導いただきました先生方、裏方として支えてくださった事務や清掃、警備の方々、寮でお世話になりました寮監さんをはじめとするスタッフの皆さまに、心より感謝申し上げます。

講 生 受

補 司 書



些細なことから

松本 大輔

きつかけは、些細なものでした。何か資格を取

りたい、ただ漠然とそう

考えていた私は、何か無い

ものかとインターネット

で調べていました。そ

こで見つけたのが、図書

館司書です。正直、それ

まで私は、司書について

何か特別に知っていた訳

でも無く、図書館学に触

れた事なんて一度足りとも

ありませんでした。そ

もそも、図書館学と言う

言葉すら、授業で始めて

た。きつかけは些細なも

の。と最初に書きました

が、この講習を受けた理

由些細なものも無いと

思います。しかし、講習

が始まり授業を受けて行

く内、私の中で漠然だっ

たはずの図書館司書とい

う職業が、驚くべき速さ

で確立されて行くのを感じ

ました。講師の先生方

は様々な視点から、私達

に図書館の知識を与えて

くださいました。実践的

なものであったり、思わ

ずワクワクしてしまうよ

うな楽しいものであった

り、自らの経験からして

頂く授業は、私達に大き

な影響と興味をもたらし

ました。これからの図書

館はどうあるべきなんだ

ろう。沢山の人人々に図書

館を利用して頂く為にど

ういう事をやっていけば

いいだろう。何も知ら

なかった筈の私が、いつ

のまにか図書館の未来に

講 生 受

補 司 書



つながらり つながるゝ

海老沢 薫

この夏は最高に充実し

た楽しい時をすごしまし

た。8月31日最後の試験が

終わり、自宅の机の上

には付箋だらけのテキ

ストとノートと地元の

図書館で借りたNDC、

NCRなどの資料と少

しの高揚感と解放感が残

りました。今思い返してみます

と、科目毎に先生は替わ

りますが、11人の先生方

が一つの輪になって、学

びの大きなフィールドを

と歩み続けることになる

と知りました。しかし、

このフィールドに立てた

からには、ただボンヤリ

と夜空を見上げ月の満ち

るのを期待するばかりで

はないでしょう。ここに

は楽しくおしゃべりした

り、講義で先生の言動に

ハラハラドキドキしたり

(最後の最後に愛すべき

御大にしてやられたこと

で盛り上がったことは秘

密)の思い出を共にする

られましたが、そのこと

は最終試験前にもかかわらず、

打上げ会に29名も

集まり大いに盛り上がっ

た時に強く実感しまし

た。あと数日で終わるこ

との安堵よりも名残惜し

さがまさり、もっと一緒

に勉強したかったと寂

しさいっぱいの帰途でし

た。伝えようとする「人

」の意志と、それを受け取

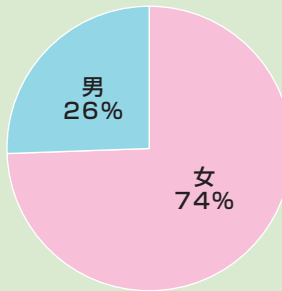
ろうとする「人」の真剣

さが鶴見大学講習の核で

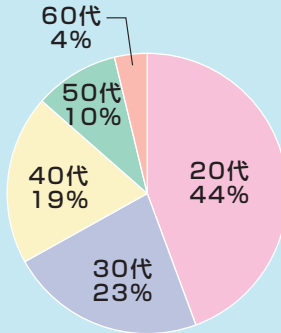
アンケート

◆平成27年度司書講習アンケート集計結果◆ (回答数/受講数=99名/133名)

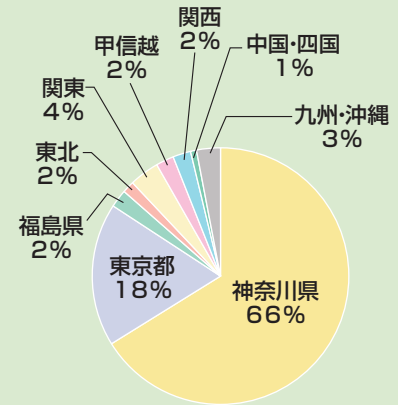
男女別データ



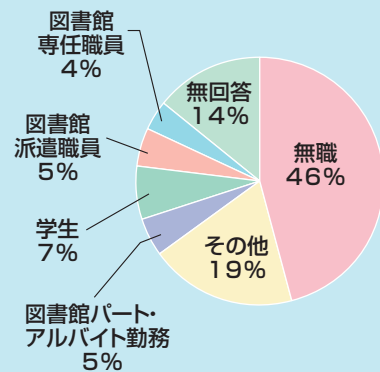
年齢別データ



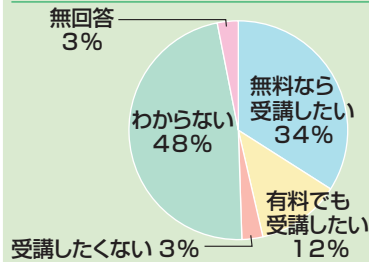
出身県別データ



職業別データ



リカレント講座の受講について

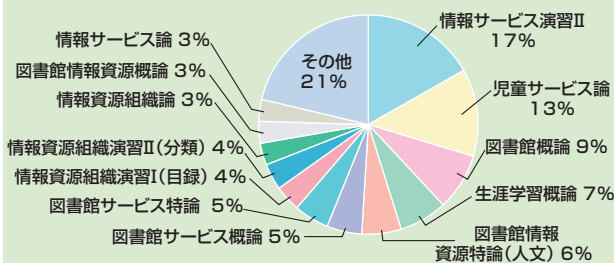


- 主な理由
- ・無料なら受講したい…より利用者のためになる知識を得たいのですが、有料だと受講費の捻出に時間がかかるため無料だとうれしい。
 - ・有料でも受講したい…現場では学べないこと、得にくい情報を得られそうだから。司書としての役割・能力向上は、これからの図書館を運営していくうえで必要となるから。
 - ・わからない…講座の内容がよくわからないから。

感想

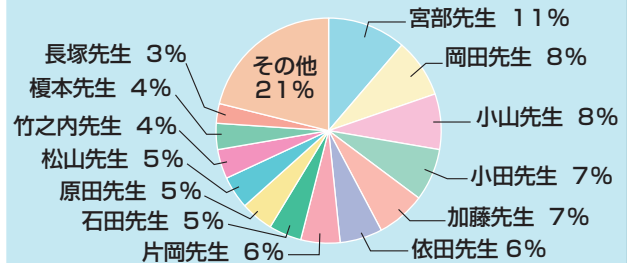
- 主な意見
- ・2ヶ月間始めたときは長いと思っていましたが、ふりかえてみるとあっと言う間でした。
 - ・西田書店はスペースはあまり広くはなかったですが、参考資料等を購入しに行った時、お店の方がすごく話やすくして買い物がはかどりました。ありがとうございました。
 - ・OA研修室はパソコンの起動が遅いのが気になりました。
 - ・PC初心者講習は基礎から教えていただいたので、わかっていたつもりでも新たな発見がありました。
 - ・図書館は参考書の充実ぶりがすばしかったです。余裕がなくてあまり一般図書を利用できなかったのが心残り…
 - ・講習中に沢山学んだ事や覚えた検索方法などのおかげで、これから図書館への就職活動を行う自信が少しつきました。
 - ・想像していたより大変でしたが、最後までやりぬくことができてよかったと思います。

印象に残った科目(複数回答)



- 主な理由
- ・情報サービス演習II…レファレンス質問は問題として作られていたので、必ず答えがあったけど、迅速に良い回答をするのは知識と経験が必要だと改めて考えさせられました。実際はもっと大変なんだろうと思うと教科書の問題は一通り取り組んだほうが良いのかなと感じました。図書館員としての仕事を明確化できる授業でした。
 - ・児童サービス論…たくさんのお絵かきや絵本を紹介していただき、また先生が実際の経験されたお話なども聞くことができ、貴重な時間でした。
 - ・図書館概論…講習の導入の授業でしたが、グループで話し合う時間も多く、最初の方にコミュニケーションが取れたことや授業も分かり易くその後の授業にとっても役に立ちました。

印象に残った講師(複数回答)

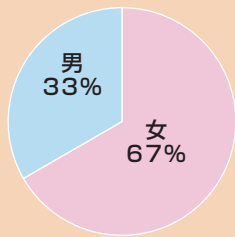


- 主な理由
- ・宮部先生…図書館員の実状や生の声が聞けて良かったです。お話も興味をそそるものばかりでした。
 - ・岡田先生…図書館界のいろいろなエピソードを話してくださり、とても楽しかったです。もっと話を聞きたかったです。
 - ・小山先生…授業の進め方がとても上手で、質問した際の対応も細やかで分かりやすかったです。
 - ・小田先生…実例豊かな教え方もさることながら、授業中につけてくるグッズ、図書館の小ネタ等大変楽しいものでした。
 - ・加藤先生…とても学ぶことが多かったのですが、評価については他の先生方のように最初の授業であらかじめ教えていただきたかったです。

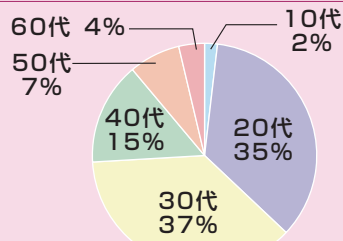
アンケート

◆平成27年度司書補講習アンケート集計結果◆ (回答数/受講数=43名/54名)

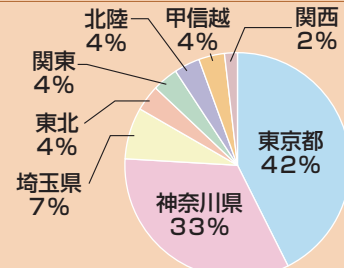
男女別データ



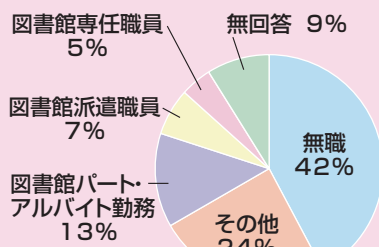
年齢別データ



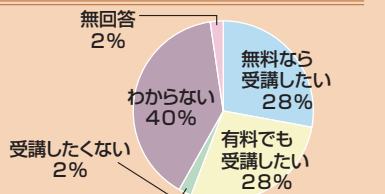
出身県別データ



職業別データ



リカレント講座の受講について



●主な理由

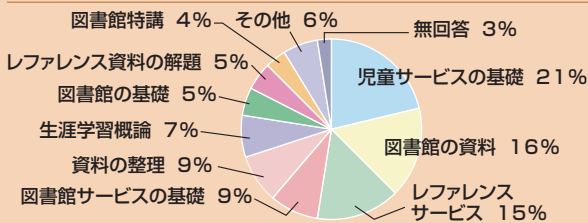
- ・無料なら受講したい…スキルアップにつながることはなるべく行動していきたい。
- ・無料なら気軽に受講できそう。
- ・有料でも受講したい…資格を取って終わりではなく、更に深めたい。もっとじっくり、納得できるように勉強したい。
- ・わからない……勤務してやりがいを感じて、スキルアップしたいと思ったら受講したい。

感想

●主な意見

- ・図書館は参考資料が豊富で、わかりやすい場所にまとめられていたのでとても便利でした。
- ・本の返却期限が一週間というのは短いと思います。
- ・PC初心者講習では、知らなかったパソコンの使い方を知ることができました。
- ・ほとんどの先生がしっかり知識が身につくようにと配慮して下さい、質問もしやすくとても勉強になりました。
- ・終盤にレポートが重なったのが辛かったです。でも、どの先生の話も講義も楽しかったですし、ためになりました。ありがとうございました。
- ・一つ一つの授業が面白く、一ヶ月半あっという間でした。いずれ司書講座も受けてみたいです。
- ・会場は駅から近く、迷わないので安心しました。館内も開放感があり、階段も二箇所に分かれて使えたりと、大人数で利用していたのにゆったりしていて、とても勉強しやすい環境でした。

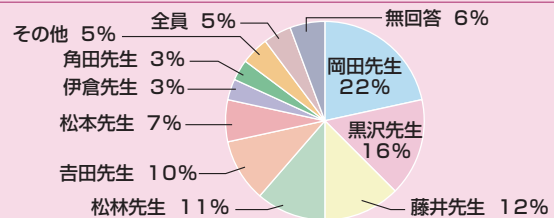
印象に残った科目(複数回答)



●主な理由

- ・児童サービスの基礎……読み聞かせにすごく興味が出ました。図書館司書としていつか実践してみたいです。
- ・図書館の資料………古典籍は嫌いだったけど、とても面白く興味がわき、もっと勉強したいと思いました。
- ・レファレンスサービス……図書館でレファレンスの実習、指導、本の読み聞かせの実習があった所が貴重な体験でした。
- ・図書館サービスの基礎……先生の講義の構成や教え方、お人柄が良く、大変に残った授業でしたが、とにかく内容が多くて、試験のときに一番キドキしました。

印象に残った講師(複数回答)



●主な理由

- ・岡田先生……自分の中で納得できる授業をしてくださいました。岡田先生の授業が受けられてとても光栄でした。
- ・黒沢先生……現役の図書館司書ということで、現場の生の声をたくさん聞かせてもらい、とても興味深い内容でした。
- ・藤井先生……短い期間でしたが一人ひとりととても大切にしてくださいいただいたのが感じられて、すごいなあと感じました。
- ・松林先生……授業のテンポがよく分かりやすかった。質問もわかりやすく答えていただいたので、「講義を受けているな」と実感した授業でした。

■司書・司書補講習の歩み■

鶴見大学の司書・司書補講習は、昭和29年(1954)に開講しました。その間、著名な多くの先生方のご指導の下、優秀な修了生を輩出し、本学の講習は成長してまいりました。そして、開設時の昭和29年に講習生の会として「一夏会」が発足したのがこの会報の由来となっております。

平成9年には大会館での講習がスタートし、JR鶴見駅から徒歩1分という恵まれた環境で講習を行うことができるようになりました。約60台のパソコンからなるOA研修室や80万冊にも及ぶ質の高い蔵書群を所蔵しコンピュータを駆使した高度な情報提供機能を持っている本学図書館の使用など、時代のニーズにふさわしい講習を行っております。

本学司書・司書補講習は、これらの歴史と数多くの優秀な修了生を誇りに今後ますますの発展を期して努力してまいります。

【司書・司書補講習受講生の皆様へ】

アンケートにご協力頂きましてありがとうございました。皆様のご意見を参考に、今後もより良い講習にしてゆきたいと思っております。また、この「一夏会報」を刊行するにあたり、原稿をご執筆いただきました先生並びに受講生の方々に深く感謝申し上げます。

真夏の暑い中、2ヶ月間お疲れ様でした。